



## ダーナの日



二月の第二日曜日は「ダーナの日」です。

昭和四十年の五月、ニューヨークで行なわれた世界佛教婦人大会で、わたしたちの代表がはじめてこの日を申し合いました。

「ダーナ」というのは、むずかしいことばでいうと「布施」、ひらくいうと「ほどこし」ということになります。佛教でいちばん大切なことである「ほどこし」。その「心からのほどこし」を、みんなでしようと申しあわしたのがこの「ダーナの日」です。

しかしダーナ・めぐむ・ほどこすとは、そんなに簡単なことではありません。

佛教では「三輪清浄」といつて、ほどこしをする場合、ダレガ・ダレニ・ナニヲほどこしたという「とらわれ」離れなければほんとのほどこしにはならないと教えています。わたしが・あの人へ・これをほどこしてあげたといふとらわれは、しよせん、恩をうつたり自慢のたねにしたりする浅間い結果を生んでしまうからです。

(ダーナ)は、とうといとらわれから離れた美くしいはでこしにはならないことを、わたしたちは先ず知らなければならぬと思います。

わたしたちのうえに、もし「清浄なほどこし」があるとしたならば、それは、如来さまが「たとえもろの毒の中にこの身を置いても」と、すべての願いすべてのお仕事を、わたし一人にほどこしてくれる、そのほどこしがあるばかりです。

ほどこしの一つもできないわたしが、実は如来さまの大きなほどこしなかに住まわせていたといふのです。このもつたいなさを思い、その思いのなかから、せめてはこのしあわせを人々におすそわけと、たし

なまさせていたいくことのなかに、念佛者のほんとのダーナがあるのでないでしょうか。

(二月十日テレホン法話)

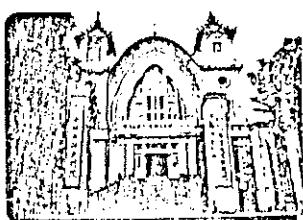
ごまみそだれ

## モダン寺テレホン法話

24時間いつでも、どこでも、何時でも聞いていただけます。  
3分間法話が聞けます。

毎週日曜日にお話しが変わります。

神戸(078)361-0091



西本願寺 神戸別院  
兵庫教区教務所  
〒650 神戸市中央区下山手通8-1-1  
☎078-341-5049

材料	白菜	三枚・人参	1/2本・きゅうり
一本・塙わかめ	一本・塙わかめ	十グラム	
ごまみそだれ	白ごま	大さじ3	みそ
じ1・砂糖	大さじ1	みりん	大さじ2
す 大さじ3)			

## 調理

- ①白菜・人参・きゅうりは5センチ長さの千切りにする。人参は塙少々してしほつておく。
- ②わかめは塙をぬき2センチぐらいに切り熱湯をかける。
- ③いつた白ゴマをすり、ごまみそだれを作り味をとゝのえる。
- ④野菜・わかめを③である。

ニラは庭のすみにでも畑のすみにでもどんな所にも出来て一年中使えます。

ことに春の若いやわらかなニラは春の香をいちばん早く伝えてくれる苦菜です。最も柔くなれた方。「ニラがゆ」。ニラを細かくきざんで、かゆの炊きあがつたところにパツと入れてすぐ召し上つて下さい。「やつことうふ」に細かくきざんだニラを薬味に入れてごらんなさい。早春の香と色とがいっぱいにひろがります。

モダン寺(神戸市中央区下山手)は神戸の一

つの名所です。  
浄土真宗本願寺派の兵庫県出張所(教務所)であり、県下真宗寺院門徒の教化の中心機関です。

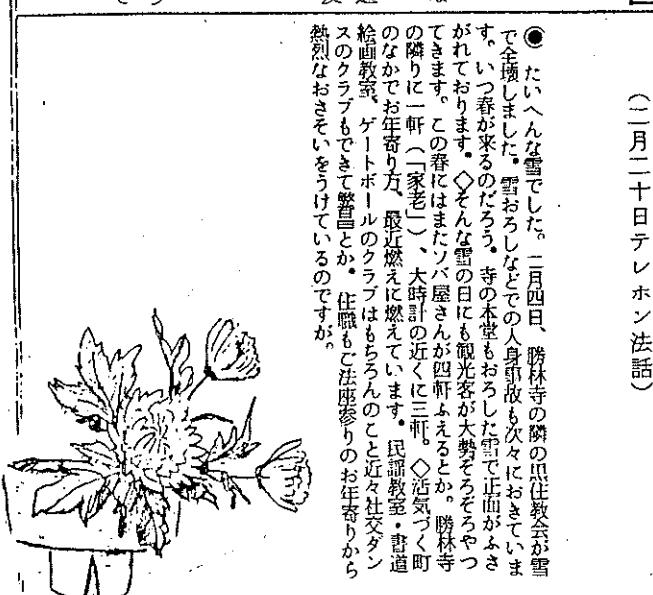
そのモダン寺教務所が、今月十二日から「テレホン法話」をはじめました。わたしたちの勝林寺テレホン法話とて県下に二つのテレホン法話ができたわけです。モダン寺の法話は、日曜日ごとにかわります。どうぞつとめてお聞きください。

## あらたな出会い

しかし、人ごとではありません。  
私も、いつか私も子から孫から、妻から夫から別れてゆかなければならぬ日がやがてくるので

す。  
ほどこしの一つもできないわたしが、実は如来さまの大きなほどこしなかに住まわせていたといふのです。このもつたいなさを思い、その思いのなかから、せめてはこのしあわせを人々におすそわけと、たし

十日に一度は  
勝林寺テレホン法話  
〇七九六五二一五八〇〇番  
を聞きましょう。



●たいへんな雪でした。(二月四日、勝林寺の隣の里住教会が雪で全壊しました。雪おろしなどでの人身事故も次々におきています。いつ春が来るのだろう。寺の本堂もおろした雪で正面がふきがれています。◇そんな雪の日にも観光客が大勢そろそろやつてきます。この春にはまたソバ屋さんが四軒ふえるとか。勝林寺の隣に一軒(「家老」)、大時計近くに三軒。◇沾氣づく町のなかでお年寄り方、最近燃えに燃えています。民謡教室・書道絵画教室・ゲートボールのクラブはもちろんのこと近々社交ダンスのクラブもできて皆普段とか。住職もご法座参りのお年寄りから熱烈なおさそいをうけています。

人の一生は、いろいろな人の「出会いの人生」であると同時に、いろいろな人と別れ別れてゆかなければならぬ「別れの人生」なのかも知れません。かけがえのない幾人かの人との大事な出会いをくださるのが如来さまのお光とおよび声です。世界を超えて、十方世界を照し出してくださいます。

如来さまのお慈悲のおよび声は、「今」だけではなく過去・現在・未来・三世にわたつてひといえどもつことができるのです。

その如来さまのおひかりのなかでこそ、遠く世界をへだてしまつたあの人とも、ふたよび出会うことができるのです。

如来さまのおよび声のなかだけでこそ、十年二十年さきに亡くなつた人とも、あらたな出会いをもつことができるのです。どんなに時をへだて所をへだても、一つ親のひかりとよび声のなかに、いまも住まわせていただいている私とあの方とが、あらたな出会いをよろこばせていたゞけるのです。

(二月二十日テレホン法話)